

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪池田市室町7番7号		
自己評価作成日	平成25年5月22日	評価結果市町村受理日	平成25年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2792500098-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年6月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは利用者様に家事リハビリを積極的に行っており、季節の行事や誕生日会なども大切にしています。年に1度の温泉旅行は利用者様、家族様、職員みんなで温泉に入り、宴会やゲームなどとても楽しみにされています。利用者様の思いを大切に寄り添うケアを重視しています。保育園の園児との交流も積極的に行い保育園でのイベントではあゆむの利用者様が1階へ降り、あゆむでのイベントでは園児が2階へあがってくるなど利用者様がいきいきとした生活、笑顔を特に重視しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の話に傾聴することで思いを引き出し、利用者が今したい事ややりたい事を把握し、コーヒー好きな方と喫茶店に行くなど、利用者の思いが実現できるよう今を大切に個別の支援に取り組んでいます。隣接する神社や地域の方の理解もあり、地域行事やえべっさんなどの祭りに誘いを受れたり、併設する保育園児との日常的な交流を通して、保護者との交流に繋がるなど地域との関わりも広がっています。また職員が介護計画を把握しやすいよう日々の記録に記載し、利用者の現状と合わなくなった場合は職員からも声が上がリ、介護計画を見直し状況に応じたサービスを提供できるよう努めています。管理者をはじめ職員間は信頼関係を築き、連携しながら利用者中心の方向性を共有し、笑顔が心かけた支援に努め、利用者の生き生きとした表情に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間の会議により一人一人が笑顔でみんなが1つの輪になるようにというホーム独自の理念を作りスタッフ間で共有している	開設時に職員の意見を集め、利用者や家族、地域の方々や職員も含めて、全ての人が関わり合う中で笑顔で一つの輪になれるようにとの思いが込められた理念を掲げています。職員が日常の中で理念を意識できるようミーティングなどで伝え、皆が笑顔で過ごしているか確認をしながら日々の支援に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	室町会や民生委員や呉服神社の神主様より地域のイベントに声をかけていただき参加している 挨拶も積極的にしている	併設する保育園児との日常的な交流を通して保護者との交流に繋がったり、買い物も地域の店を利用し、出会った方々と挨拶や言葉を交わしています。隣接する神社からえびす祭りなどへの誘いを受けたり、運営推進会議でも情報を得て多くの地域行事に参加し交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、電話での問い合わせ、見学などがあった場合に備えて随時受け付け、相談にのり力になっていくよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い意見交換をしたり、助言をいただき、地域の方々との関わりやサービスの向上に活かしている	会議は家族代表や神社の神主、自治会関係者、市職員などの参加を得て隔月に開催し、行事報告などを行い質疑応答がなされています。参加者の意見を受けて災害時の近隣との協力関係作りに取り組んだり、地域の同業者との交流についてアドバイスをもらい、実現に向け話し合うなど、運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の手続き、入居、相談やアドバイスをいただき質の向上に取り組んでいる	市担当者には運営推進会議に参加を得ており、開設当初から様々な相談を行いながら運営し、良好な協力関係を築いています。また介護相談員の受け入れや地域密着型会議に市担当者が参加することもあり、情報をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階の玄関のシャッターは地震、火事等があった場合ロックされる可能性が考えられるため現在はしていない。玄関のカギに関しては日中は解錠、夜間帯は施錠している。2階入り口に関してはご家族様の希望もあり危険防止のため施錠している	職員は身体拘束に関する法人研修や社内研修に参加し、ミーティングなどで不参加の職員に伝達し、周知しています。ホーム出入り口は地域からの要望や家族の希望もあり、安全のために施錠していますが、外出希望があれば付き添い、利用者を見守りながら自由に過ごしてもらえるよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等での事を意識し、虐待防止に努めている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、社外研修、ミーティングなどで学ぶ機会をもつようにしている。最近では研修の参加をしておらず、実施していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間～1時間30分時間をいただき契約を行っている。各項目ごとに時間を設け不明な点の説明、質問の時間を作っている。それでも不明な点があった場合には資料を添えて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時には声をかけさせていただき意見、質問、利用者様の現状を話させていただき、発言しにくいこともあるため、2階入り口に意見箱を設置し発言しにくい方にも対応している。ご家族様とも積極的にコミュニケーション、電話をしている	日頃から利用者や家族が意見を言いやすい雰囲気作りにも努め、家族の面会時や介護計画の見直し時に意見がないか声を掛けています。意見を受けて月に1度、利用者が食べたい物を作る日を設けたり、個別の意見を受けて仏壇のお供えを定期的に買いに行く等、サービスに活かしています。また毎月介護相談員を受け入れ、利用者の声を聴いてもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に声を掛け話を聞くようにしている。そこからでた意見や提案を現場に反映するようにしている	職員は毎月のミーティングや日常業務の中で積極的に意見や提案を出しています。その都度ミニ会議を開き、利用者の状況に応じて業務分担を見直すなど、職員間で話し合いの上、実践に繋げています。また管理者は職員の様子を見ながら個別に意見を聞いたり、随時相談に応じています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境になるようスタッフ同士が刺激しあい、やりがいや充実した毎日が送れるような環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加、社員中心で研修に参加し、社内研修で活かしたり気づきなどを大切に、1人1人職員のレベルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3ヶ月に1回池田市のグループホームの管理者、ケアマネージャー、リーダーが集まる機会があり、意見交換、勉強会、研修、日ごろの悩みなど話す場を設けている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくり時間をかけコミュニケーションをとり、本人様の要望などに耳を傾け少しでも安心できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話対応、来所時に家族様にこちらから声をかけさせていただき、家族様からの要望などにも耳を傾け、少しでも安心できるような形にもっていけるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にとってなにが必要か？大事なのか？職員、家族様、本人様も入り話し合う機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いままでの生活の延長で家庭的、1つの家族としてお互いが支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と本人様だけでなく本人様と家族様の絆を大切にし、家族様にも協力していただくこと、外食、誕生日、手紙など家族様と本人様が少しでも会って本人様、家族様、職員が共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所や店へ行ったり、お友達や知り合いの方の訪問があった場合の時間を大切にしている	日々の会話の中で聞いた利用者の思い出の場所や入居前から利用しているスーパーなどへ一緒に出掛けています。定期的に趣味のカラオケに通う方を支援したり、家族と共に墓参りなどへ出かける方には外出がスムーズにいくように支援を行っています。また友人や近所の方の来訪もあり、部屋でゆっくり過ごしてもらうなど、これまでの関係を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用所様同士で洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり、談話したりお互いが支えあい生活している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を大切にし、必要に応じて相談や情報提供をし、関係が途切れなような体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの聞き取り、おっしゃられた言葉、表情などの気づきを大切に、職員が情報を出し合って本人様の思いや意向の把握に努めている	入居時の面談で利用者や家族から聞いた、これまでの生活歴や趣味、暮らし方の希望などの情報を基に、思いの把握に努めています。思いを伝えることが困難な方は改めて家族に聞いたり、利用者の表情や行動を支援経過に記載して職員間で共有し、利用者の思いを汲みとれるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の来所時、入居前、入居時に出来る限り情報を収集しスタッフ間で共有する形をとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフがその都度アセスメント、カンファレンスし現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様、スタッフ間で担当者会議の実施、友人など共話し合いの機会を持ち、医師や看護師の意見も取り入れ現状に合ったケアプランを作成している	アセスメントを基に利用者や家族の意向、往診時の指示も加味し、全職員の意見を反映した介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い現状に即しているかを見極め、3ヶ月毎に本人も参加するサービス担当者会議を開き、介護計画を見直しています。介護計画は職員が把握しやすいよう日々の記録に記載されており、利用者の状況と合わなくなった場合は現場の職員からも声が上がり、計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、利用者様の変更点、病院の記録を作成し情報を共有、工夫し実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全安心に外出できるように支援している。事業所側だけで送迎などを行わず家族様に依頼したり利用者様と少しでも関わりを持っていただくように支援している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りにある地域資源を活用し、駅も近いこともあり豊かな暮らしを楽しむ事が出来る環境にある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合受診が必要か主治医の先生に相談し家族様に連絡、入居前からのかかりつけ医がおられる場合の対応も出来るようにしている	入居時にかかりつけ医を選択できることを伝え、希望に合わせて決めてもらっています。受診は家族や職員が付き添い、かかりつけ医によってはホームへ往診があります。協力医は月2回の往診の他、随時の往診や指示をもらっています。緊急時は事前に話し合っただけ対応方法に沿って支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の在宅医療の医師や看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が病院へいき医師、看護師、ご家族様とカンファレンスの場を持っていただき、情報交換を行うようにしている。又電話などでも連絡し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの場を持っている。状態が変化する中で、協力医療機関のほうから医療情報提供表を1ヶ月に1回家族様、事業所にいただいている。緊急時の対応も説明しており、必要時家族様、医師、管理者、ケアマネジャーで話し合いの場をもうけている	入居の際にホームで対応できる範囲について説明し、常時医療が必要となった場合は対応が難しいことを伝えていきます。入院された場合はホームに戻ることが可能かは医師の判断に任せ、本人にとって最良の方法を話し合っています。ホームに戻られた際は関係者で話し合いを重ねながら見守りの回数を増やしたり、家族に多く面会に来てもらうなど、ホームで対応できる限りの支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で緊急時の手順や、事故発生時の対応について実施している 期間があくと実際緊急時の時にあせってしまいスムーズ動きが取れないため定期的実施するようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については地域の代表の方から地域の方に話をしている、避難所なども事前に運営推進会議などでお知らせして頂いている 避難訓練を保育所と合同で行ったり、消防署の方に来ていただき、訓練もしている	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、内1度は消防署の協力の下に行っています。併設保育所とも合同の訓練を行う他、誘導や消火、通報などテーマ毎にも繰り返し実施しています。訓練は運営推進会議で声を掛けたり、近隣にも呼び掛けて実施しています。また地域からは何かあれば協力する旨、声をかけてもらっています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを基本としている。不適切な言葉が出た時は職員同士注意し合っている	職員は利用者を人生の先輩として尊重した対応を心がけています。利用者と同じ目線で話したり、個々に合わせた対応やその場の雰囲気にも気を配っています。また排泄の支援などは利用者の羞恥心に配慮した対応を心がけています。職員に不適切な対応があればその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望、選択、自己決定出来るように声掛けに工夫し、言葉でなかなか伝えられないところや、気を遣われておられるところもあるため表情や動きに気づきがあったスタッフは声掛けし積極的に対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間などがうまく他の予定などで希望に沿った支援が出来ていないこともあるが、1人1人のペースを大切に出来る限り希望に沿った支援が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの場所へカットへ行ったり、化粧品も自分でできる方はしていただいたり、出来ない方も了解を得てからスタッフが介助している服は家族様に持ってきていただいたり、スタッフと一緒に買い物へ行ったりもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・食事作り・片づけなどその人1人1人の能力に合わせていただいている。利用者様に献立を決めていただいたりもしている	毎日利用者と買い物に出かけ、利用者の得意なことや出来ることを引き出しながら、一緒に調理に携わってもらっています。おやつ作りや外食を楽しんだり、弁当を作って公園へ出かけることもあります。職員も一緒に食卓に着き楽しい団らんの時となるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事はわかるように毎食・毎時間記録している。水分が取れない時、食事がとれにくい時はゼリーをつくったり、分割して食事を摂取していただいたり、食事時間をずらしたり工夫している。摂取困難な場合は必要に応じて担当医師に指示を仰ぐこともある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。しっかり磨けていないところに関してはスタッフが確認し、仕上げ磨きをする。必要時訪問歯科などでも対応している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を30分刻みでつけ、トイレ誘導等の時間を工夫し排泄パターンがわかるようにしている。さりげなく声掛けをしたり相手の気持ちを考え、対応している	利用者毎の排泄を細かく記録して排泄リズムを把握し、言葉が出にくい方は排泄のサインを見ながら個々に合わせた支援に努めています。トイレの場所が分からない方はさりげなく誘導したり、利用者ができないことの支援に努めています。夜間の安眠に向けての排泄介助について、その方に合った方法を話し合っています。布の下着の方が多く、できるだけ長く布の下着で過ごせるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・適度の運動を心掛け工夫して提供している。便の薬の調節、利用者様の訴えや、腹部のはりなどその都度状況に応じて医師に相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているがその時の利用者様の状態に合わせて対応している。入浴日以外を希望された時、汗をかかれた時なども本人様の訴えとスタッフからも声掛けしその都度対応している	入浴好きな利用者が多く、希望を聞きながら週3回以上入ってもらえるよう支援し、汗をかいた時などはその都度入ってもらっています。一人ずつ湯を入れ替え、入浴剤を入れたり、季節のゆずやしょうぶ湯なども行い入浴が楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて昼寝をしていただいたり、ベッドで足をのばしていただき休んでいただいたり、夜間帯は布団の調節、冷暖房で調節したり本人様が安心して気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめ確認出来るような形をとっている。日付、名前等を読み上げ服用して頂いている。薬が変更したとき、飲み方に変更があった場合は、申し送りを口頭・ノートに記載し徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・生活歴・あゆむに来てからの気づきなどその方その方に合った楽しみを見つけ過ごしていただくように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店や、ドライブ、買い物、『今したいこと・やりたいこと』利用者様の訴えを出来る限りその場その日に対応できるような形をとっている。家族様と外食・外出・美容院へ出かけたりもしている	ホームの周辺は緑も多く、散歩や買い物に恵まれた立地にあり、全員の方が交代で出かけられるよう配慮しながら、日々散歩や買い物、ドライブなどに出かけています。また、利用者が今行きたい所を大切にしコーヒー好きな方と喫茶店に行ったり、普段は行けないような一泊旅行を実現するなど、外出の支援に積極的に取り組んでいます。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かりスタッフが金庫で管理している。家族様と本人様の希望により能力に応じて個人的に持っておられる方もいる。支払いを買い物時ご自分でされる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に負担がかからないようにし、希望があった場合は電話をしたり、電話があった場合は本人に代わり電話で話をしたりする。手紙やはがきを購入し家族様に書かれる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱するような場所の移動、物の設置は避け本人が生活しやすいように整理整頓を本人としたりして過ごしやすい環境を整えている。温度・湿度管理も徹底し日中スタッフから夜勤スタッフへ申し送りをし調節し対応している	明るいきりびんぐは利用者で作った季節毎の作品を飾ったり、廊下の壁には温泉旅行など様々な行事の写真を貼り、利用者に話題を提供しています。利用者の相性に配慮してテーブルの配置を変えたり、廊下に椅子を置き一人になれる場所を作るなど、思い思いに過ごせるよう工夫しています。窓を開けて空気を入れ替え、温度や湿度もこまめに確認し、過ごし易いよう調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりできる空間をつくったり、椅子を設置したり、居室で過ごしていただいたり、リビングで過ごして頂くにも声を掛け気の合った利用者様とすごせるような環境を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様、本人と相談をし馴染みの物を置いたり、本人が使いやすい位置に置いたりし、居心地良く過ごして頂くようにしている	利用者は家で使っていたソファやチェストなどを持参し、職員もアドバイスしながら過ごし易いよう家族と配置し、孫の写真や花の絵ハガキなどを飾り、その方らしい居室となっています。仲の良い利用者同士で過ごしたり、自室で本を読む方もあり、ゆっくり落ち着いた空間となるよう配慮しています。転倒の危険がある方の居室には壁に緩衝材を取り付け、安全にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人一人のADLを把握し、力を引き出し出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。利用者様ができること・できないことをきっちり判断し対応している		